

• 2025（令和7）年 12月号 •

赤れんが博物館NEWS

発行：舞鶴市立赤れんが博物館



令和7年度第2、3回 市民講座特集



講師

水野 信太郎さん

舞鶴市立赤れんが博物館 顧問
北翔大学名誉教授 工学博士

赤れんが博物館では、れんがの歴史を市民の皆さんと学ぶ「市民講座」を開講しています。令和7年度第2回は10月14日の「鉄道の日」にちなみ「鉄道とれんが」について、第3回は11月1日の「灯台記念日」にちなんで「灯台とれんが」について水野信太郎先生にお話しいただきました。

日本の近代化とれんが⑤ 鉄道とれんが

2025年9月20日(土)



↑ 東京駅躯体煉瓦の展示

「日本の近代化とれんが」第5回は「鉄道とれんが」をテーマに日本の近代化における「鉄道」と「れんが」の深い関わりについて、歴史的背景、そして技術的な側面から解説いただきました。

「鉄道の父」として知られる井上勝は、鉄道寮頭（長官）として、新橋-横浜間、神戸-大阪間、京都-大津間などの鉄道建設を指揮しました。東京駅丸の内駅前広場には井上の銅像があります。

鉄道分野で煉瓦が大量に使用された理由は、「腐らず、燃えず、鉄道向き（トンネル、橋梁、駅舎など）」であったと説明され、明治期における全国の主要な煉瓦製造会社や工場の分布図を示され、鉄道網の拡大とともに煉瓦需要が全国に広がったと解説されました。

ちなみに、先生のご家族鉄道とのつながりは強く、特にお父様は「鉄道兵（独立第七鉄道隊）」として終戦を迎えたそうです。

日本の近代化とれんが⑥ 灯台とれんが

2025年11月1日(土)



↑ ブラントンとその灯台れんがの展示

「日本の近代化とれんが」第6回は「灯台とれんが」がテーマ。日本の近代化における「れんが建築」と「灯台」の役割、およびそれに関わった外国人技術者たちを中心に解説いただきました。

最初に江戸時代の日光東照宮の「回転灯籠」について説明され、西洋技術との接触が明治以前から始まっていたことを説明されました。

明治初期、日本のインフラ整備やれんが建築の普及は外国人技術者たちの貢献なしには成し遂げられませんでした。なかでもスコットランド人技師リチャード・H・ブラントン（R.H. Brunton）は、「日本の近代灯台の父」と呼ばれています。1868（明治元）年に来日し、犬吠埼灯台（銚子市・れんが造）、神子元島灯台（下田市・石造）、江崎灯台（淡路市・石造）など約30基の灯台の建設を指揮しました。灯台だけでなく、横浜の都市計画（日本大通り、横浜公園、吉田橋など）や鉄道建設の意見陳述も行い、横浜まちづくりの父としても称えられています。

博物館実習展 「舞鶴のまちで見つける建物ではない赤れんが」

会期 2025年11月8日(土)～23日(日)



↑博物館実習展展示

赤れんが博物館では、大学の博物館実習の一環として、学芸員の実務を体験する博物館実習を受け入れています。

今年度は、11月3日(月)から7日(金)までの日程で、愛知学院大学文学部歴史学科から実習生を受け入れました。

「実習展示」で、館蔵品のなかから実習生自身がテーマを設定し、展示資料を選定、解説文などを作成し、資料を陳列する作業を行いました。建物以外に使用された舞鶴の赤れんがに焦点を当て、鉄道の橋脚とトンネル、歩道のれんがを取り上げた展示を企画しました。

今年のれんが 「来館者の方が出会ったれんが」

博物館の来館者の中には、お帰りになられるときに感想をお話してくださる方がいらっしゃいます。ただ一つのれんがを見るため来館された方や、思いもしなかったれんがとの出会いに大変感動された方など、今年、お話を聞かせていただいた方のれんがを取り上げました。

●讃岐煉瓦(株)刻印のれんが・・・

2階展示の原爆ドーム、板東俘虜収容所跡、別子銅山小足谷接待館跡のれんがは、香川県観音寺市に創設された讃岐煉瓦製で、松葉を菱形に組み合わせた刻印があります。讃岐煉瓦会社関係者の方が見つけられ、「大変懐かしい」と喜んでおられました。



↑別子銅山小足谷接待館跡れんが



←全米日系人博物館のれんが
（旧西本願寺博物館）
←アレクサンドロフスキイ宮殿のれんが
（左）

●全米日系人博物館のれんが・・・

全米日系人博物館は、アメリカのロサンゼルスにある日系アメリカ人の歴史や文化を展示している博物館ですが、偶然来館された全米日系人博物館の関係者の方は、「舞鶴で私の博物館のれんがに出会うとは！」と驚かれ、その感想を話してくださいました。



←アレクサンドロフスキイ宮殿れんが
（左）

●アレクサンドロフスキイ宮殿のれんが・・・

アレクサンドロフスキイ宮殿は、ロシアのサンクトペテルブルク（旧レニングラード）に、女帝エカテリーナにより建設されました。クルーズ船乗客で、サンクトペテルブルグ出身のロシアの方々が、「アレクサンドロフスキイ宮殿のれんがが見たい。」と、れんがを名指して来館されました。

「赤れんが博物館ってどんなところ？」来たことがある方にも、まだの方にも、当館のディープな魅力をお伝えしたくて、今年から博物館ニュースをお届けしています。

自慢のコレクションは、約2,220点の世界や日本のれんがをはじめ、鉄道レール、進水記念絵葉書などなど……。令和8年も、知れば知るほど面白い資料を張り切って紹介していきます。来年も引き続き、よろしくお願ひいたします！